モニタリングシート（院・生活環境学専攻）

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
1	前年度の向上・改善施策の実施状況（成果・課題・継続事項）はどのような状況であるか。	点検・評価課題に対する向上・改善施策	博士後期課程である生活環境学専攻は、2022 年度は定員充足率の平準化が必要であることが示されている。	2023 年度の入学者は食物栄養学１名、生活造形学１名であり定員２名を満たした。2022 年度の在籍者数／全収容定員は 83%であり、充足していない。	引き続き、収容定員充足率の上昇に努める。
2	定員充足の状況はどのような状況か。	定員充足率データ	博士後期課程である生活環境学専攻は、食物栄養学専攻及び生活造形学専攻の２専攻から成る。2023 年度の在籍者は、生活造形学領域は D1 が１名、D2 が１名、D5 が１名、D6 が１名（23 年度休学中）、食物栄養学領域は D1 が１名である。今後も安定した全収容定員（６名）の充足に向けて取り組む。	2023 年度の入学者は食物栄養学１名、生活造形学１名であり定員２名を満たした。2022 年度の在籍者数／全収容定員は 83%であり、充足していない。	経済的支援、社会人やリカレント教育入学、留学生等の幅広い学生受け入れについてのシステム作りとその周知に取り組む。学生の意見も積極的に取り入れる。
3	DP・CP と連関したカリキュラムが適切に設計されているか。	履修要項等の各種データ	生活環境学専攻では、教育課程編成・実施の方針に基つづき、教育課程を体系的に編成し実施している。専門領域別には、食物学および栄養学特殊研究、同特殊演習、アパレル造形学・空間造形学・生活文化学などの特殊研究および同特殊演習を設置し、専門性の高い研究を深める科目編成としている。共通科目として「生活環境学特殊研究」が開講されており、食物栄養、生活造形、生活福祉の３分野でオムニバス形式の授業が行われている。	特になし	「大学院改革試案」を参考に、新共通科目及び横断科目の導入に向けて、新たに DP・CP の見直しを検討する。
4	DP に沿って設定された各学位プログラムレベルにおけるカリキュラムについて、適切に実施されているか。	・履修状況等の各種データ ・大学院アンケート結果	研究指導を毎年継続的に履修させることにより、最先端の課題研究の遂行を通じて、問題解 決の手法、論理的な思考法、発展的課題の設定法、科学に関する倫理をより深く学ぶ編成となっている。 その上で、研究の成果を国内外の学会や学術誌に発表し、プレゼンテーション能力を高めるとともに、 最終的に、研究の成果を博士の学位論文として作成し、高度な専門的職業人および教育・研究者、指導者としての能力の確立を目指す科目編成となっている。	特になし	「大学院改革試案」を参考に、新共通科目及び横断科目を導入し、論文指導やキャリア形成のバランスがとれたカリキュラム設計を行う。

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
5	学修成果の到達度の把握はどのようにおこなっているか。	学修成果把握の取り組み等 大学院アンケート結果	2022 年度は、研究内容について、国際学会を含む複数の学会発表及び国際誌を含む複数の論文発表が行われた。また、全研究科対象のアンケートでは、授業レベル、履修指導、研究指導について概ね高い評価が得られている。	特になし	引き続き、学会発表や論文発表等を積極的に行う。
6	各科目の成績および論文・研究が適切に評価されているか。	・成績評価に関する取り組み等 ・大学院アンケート結果	成績評価については、全研究科対象の大学院アンケートではあるが、8 割以上が「適正に評価されている」と回答し、評価については概ね適切であったと思われる。また，家政学研究科生活造形学専攻では，専門科目における受講生が 1-4 名と少ないためシラバスの基づいた評価を絶対評価で適切に行い，質疑応答，フィードバックも適切に実施し，学会発表などで外部評価も適切に評価されている.	特になし	引き続き、適正な成績評価についての取組みを行う。
7	職位構成・年齢構成のバランス、非常勤比率に留意し、かつカリキュラムに基づく教員組織となっているか。	・所属教員の状況 ・科目群別非常勤比率	2022 年度は、博士後期課程の指導教員 10 名、指導補助教員 2 名、職位は教授のみで構成されており、男女比はほぼ 3：1 である。また、大学院の非常勤比率は 1.9%であり少ない。 教員の専門分野の配置は、食物栄養学専攻及び生活造形学専攻のいずれにおいても、適切である。	特になし	特になし
8	課題認識および外部環境を踏まえた独自の FD 活動を実施できているか。	・FD 取り組み状況 ・前年度点検シート ・点検・評価課題に対する向上・改善施策	本専攻では、食物栄養学および生活造形学(アパレル造形学、空間造形学、生活文化学の 3 研究領域)から構成されるため、異なる研究領域間での研究指導方法を学ぶ機会を設けている。博士後期課程における博士論文の中間発表(あるいは事前発表)・公聴会に、専攻あるいは研究科の全教員が出席し、意見交換を行っている。教員各自の研究指導方法を見直し、教育の質的向上および改善に資することを目的として、異分野の研究発表を聴く機会を複数回設けている。	特になし	異なる 2 領域で構成される研究科の強みを生かし、広い視点あるいは異分野の視点を踏まえた、より充実した研究体制を継続する。
9	上記以外で「継続すること」「課題」「次へのアクション」「全学レベルで検討すべき事項（提案）」があれば入力。	・各種データ	特になし	特になし	特になし